

8

水田放牧を活かした地域づくり

杉本牧場（杉本 賢・好美夫妻）（京都府綾部市）
【肉用牛繁殖経営】



- 地道に、着実に、規模を拡大
- 夫婦で「楽しい牛飼い」を実現
- 放牧効果を地域に普及

1 地域の概要

京都府綾部市は京都府の中北部に位置し、北は舞鶴市・福井県、東、南は南丹市・京丹波町、西は福知山市に接し、東西に32km、南北に15kmで、面積は347.11km²である。

気候は年間平均気温が14.8度、最高気温が36.1度、最低気温が-3.5度の日本海側気候となっている。

綾部市の耕地面積のうち、田が90.2%、畑が6.6%を占め、農業算出額40.3億円のうち米が43.9%、畜産が36.2%、野菜が8.9%で、畜産は米に次いで地域の主要作目となっている。

家畜の飼養頭数は、乳用牛882頭、肉用牛1,410頭（繁殖180頭、肥育1,230頭）、豚50頭、鶏27万羽となっている。



2 経営の概要

杉本氏は、昭和55年に綾部市奥上林で将来の畜産発展を見込んで手作り牛舎を建て、2頭の繁殖雌牛を導入して畜産経営を開始。

その後、地道に規模拡大を進め、現在では繁殖牛13頭と8頭の子牛を飼育している。

平成9～10年には府内で初めての水田放牧に取り組み、粗飼料自給率100%を目指してトウモロコシやソルガムの作付け、平成12年度からは飼料用稲（稲WCS、品種：クサノホシ）の栽培にも取り組んでいる。

経営地面積の内訳

水稻（飼料用）	1,000a
水田放牧	80a
飼料畑	40a



【杉本夫妻】



【放牧状況】

3 取組の経緯

綾部管内においては、和牛繁殖経営の後継者が少ないことから、平成9年度、関係機関が協議し、「楽しい畜産をやろう！」「見える（見せる）畜産をやろう！」を合い言葉として、和牛放牧の実施にむけた取組を行うことを決め、関係機関による山口県等の「日本型放牧」の先進事例調査結果の報告、畜産農家も含めた兵庫県等の先進地調査などの検討を重ねてきた。

放牧実施の気運が高まった平成10年度、杉本牧場を含む3戸をモデル農家に

選定し、畜産再編総合対策（自給飼料生産総合推進事業）によりモデル放牧場を設置し、実証展示や現地検討会等の普及啓発の取組が行われた。

杉本牧場では、「中山間地での水田放牧の実証（転作田の利用、短草型牧草の利用）」を主要内容に、当時の飼養頭数11頭の内、妊娠安定期にある10頭を、牛舎に隣接する水田48aをトールフェスク等に転作し、放牧場として春から秋にかけて昼間放牧を実施した。

その後、放牧面積を80a（40a×2牧区）に拡大し、現在に至っている。

また、転作水田（40a）において、トウモロコシやソルガム、イタリアンライグラスなどの飼料作物を作付けするとともに、平成12年度からは稲発酵粗飼料（41.63a）の生産利用にも取組み、粗飼料自給率の向上を目指している。

4 放牧の概要

5月から11月の間、80aの放牧地（40a×2牧区）に10頭程度昼夜放牧している。放牧牛は全飼養頭数13頭のうち、妊娠安定期にある牛を選択している。

5 放牧の特徴

放牧場が人家に近く、地方幹線道路（府道）に面していることから、杉本氏は「放牧＝ふん尿垂れ流し」のイメージや、悪臭、衛生害虫、脱柵等に対する住民の不安を生じさせないように、環境美化等に細心の注意と努力をはらっており、放牧地の周りには花を植えている。

「牛を活用した地域づくり」を目指して、耕作放棄地の省力管理等の放牧効果を地域に広げる取組を行っている。

6 放牧の効果

飼養管理の省力化、自給飼料の利用による飼料費の低減、繁殖成績の向上、地域における米生産調整の達成や耕作放棄地等の発生防止。

通りかかった家族連れなどが自動車を止めて草を喰む牛を眺めたり、地元の小学校が見学や写生に訪れるなど、畜産に対する理解醸成や地域の活性化に大きな役割を果たしている。

杉本氏の牛を活用した地域の耕作放棄地での放牧の取組が行われるなど、地域力再生への新たな取組が行われつつある。



【徐々に大きくしてきた牛舎】



【放牧地の周りは花いっぱい】



【地域総出で放牧準備】



【放牧開始に笑顔】

執筆協力・問い合わせ先
京都府農林水産部畜産課経営係
TEL：075-414-4981